

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社セリオ東三方工場新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市北区東三方町263-1、	構造	S造
用途地域	商業地域、法第22条区域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,040時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年5月21日
敷地面積	100,007.61 m ²	作成者	中野 栄太
建築面積	3,638.25 m ²	確認日	
延床面積	7,006.50 m ²	確認者	安井 孝浩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
CASBEE静岡2016年版による評価結果である。躯体や仕上げ、設備を解体時に分けやすくしているだけでなく、工場内に分別スペースを設け、リサイクル業者が回収しやすくなっている。また、設備の修繕やバックアップに対応したスペースに対応しており、敷地境界に十分な緑地を計画している。	セリオ東三方工場は、セニアカー(電動車椅子)の製作工場である。	
Q1 室内環境 平均照度の高い照明を使用している。また、内装材・接着剤は全てF☆☆☆☆を使用している。	Q2 サービス性能 階高や天井高に余裕を持たせている。また、設備の修繕やバックアップに対応した十分な設計になっており、災害時に備えた対策もとられている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の緑地面積が30%を超えるような十分な緑地を計画している。
LR1 エネルギー 省エネ法の届出に則した外皮・設備内容としている。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上げ、内装材と設備がそれぞれ容易に分別・取り外し可能になっている。	LR3 敷地外環境 隣等間隔3.47で、夏期に建物を通った風が回復しやすいようにした。また、工場内に分別収集スペースを設け、廃棄物を回収しやすくした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	株式会社セリオ東三方工場新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0 / 5		よい
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 / 5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.4 / 5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7 / 5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	4.0	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④空調・給排水配管において、主用途の3種のうち2種類以上に0を使用 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数が39.3%となるように外構を緑化している。 ⑥緑被率23.40%になるよう緑地を確保している。 	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨省エネ法の届出に即した外皮・設備内容としている。 	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
<ul style="list-style-type: none"> ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水機能付き便器を使用している。 ⑫躯体以外で、再生アスファルト舗装や再生クラッシュランを使用している。 	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.1.3 2.1.4 2.1.5 2.1.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2換算値66% 	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	2.9	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰空調・換気設備において、災害時に全体機能が停止しないよう、負荷容量を下げた運転ができるように設計されている。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	2.4	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳1階階高4.85m、2階階高4.75m 事務所天井高2.7m 	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑外装・屋根等の形状や色彩において、周辺の街並みや風景に調和させている。また、植栽で良好な景観を形成している。 	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	2.7	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔敷地内の緑地面積が30%を超えるよう、十分な緑地を計画している。 	Q-3 1 2 3 3.2	㉒ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ・景観への配慮 ㉔ 敷地内温熱環境の向上
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善) ㉕隣等間隔3.47で、夏期に建物を通った風が回復しやすいようにしている。 	LR-3 2 2.2	㉕ 温熱環境悪化の改善